

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が第21週に1例(女性, 10歳代)あり, 本年初めての報告となっています。型別はO145(VT1)で, 感染原因及び感染経路は不明です。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は, 9.66(396例)で, 先週(8.44)に比べ増加するとともに, 過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では1歳が78例(19.7%)と最も多く, 次いで3歳48例(12.1%), 4歳42例(10.6%)となっており, 1歳から4歳までで51.0%を占めています。
- 突発性発しんの定点当たり報告数は, 0.39(16例)で, 先週(0.24)に比べ増加しています。年齢階級別では2歳以下で報告があり, 6箇月～11箇月が43.8%を占めています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.20(8例)で, 過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では1歳, 3歳, 5歳及び20歳以上で報告があります。例年6月頃から増加し, 7～8月にピークとなりますので, 今後の動向に御注意ください。

◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.34(96例)で, 2週連続で過去5年平均値を上回るとともに, 本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 7例(肺結核 6例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 162例(肺結核 66例, その他結核 38例, 潜在性結核感染者 58例)うち喀痰塗抹陽性 36例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例(第21週分速報)【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: クロイツフェルト・ヤコブ病(孤発性) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.18	12
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.66	396
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.34	96
	③ 水痘	1.10	45
	④ 突発性発しん	0.39	16
	⑤ 手足口病	0.27	11
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

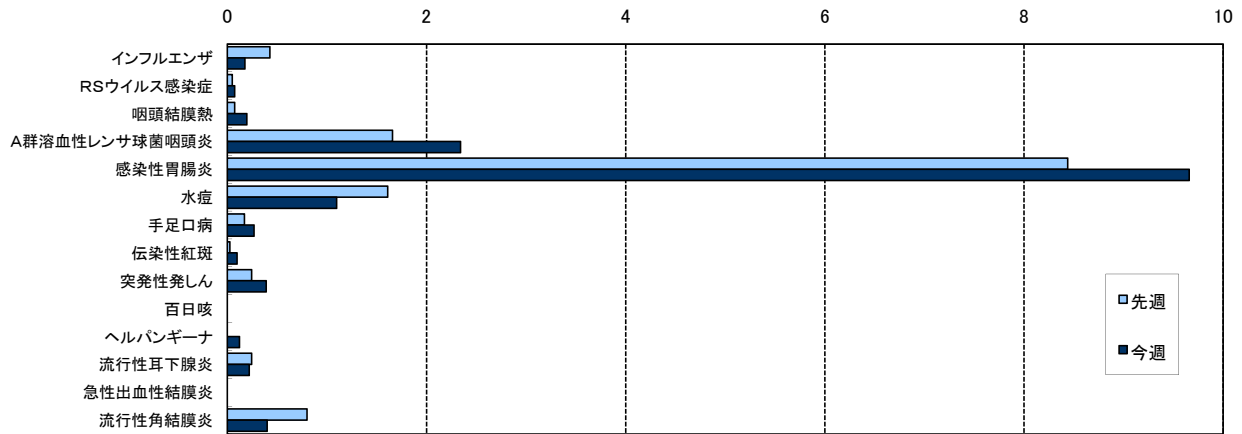
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

(注) 京都市のデータは, 平成24年5月24日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

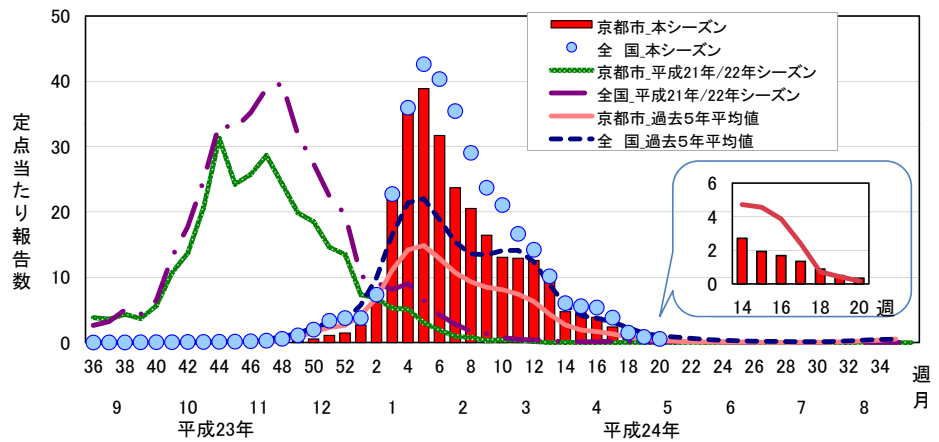
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第20週)と先週(第19週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

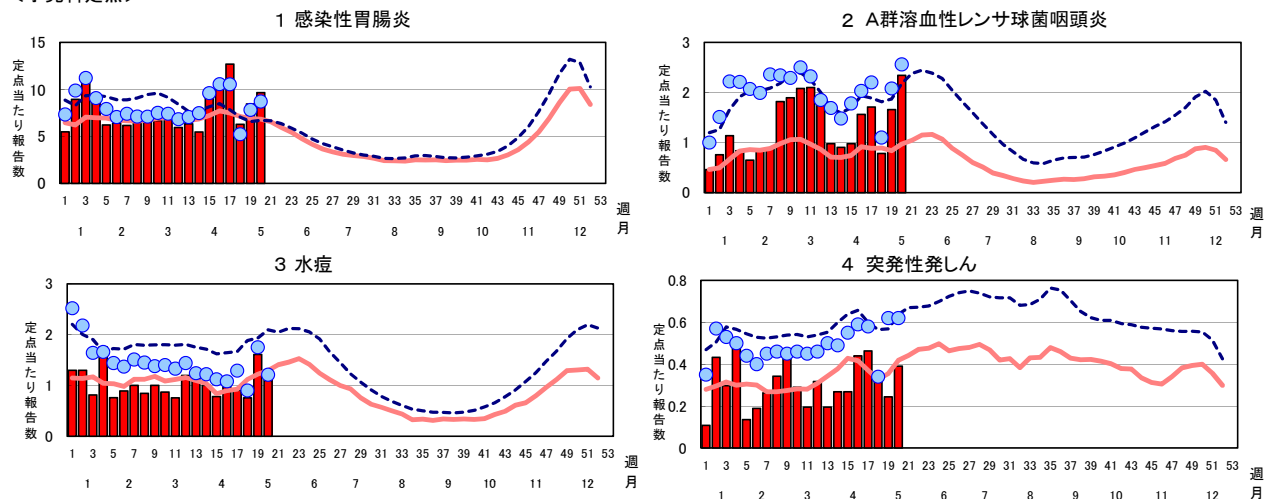
週	報告数(例)
第16週	263
第17週	163
第18週	49
第19週	29
第20週	12
累積報告数 (第36週以降)	17,459



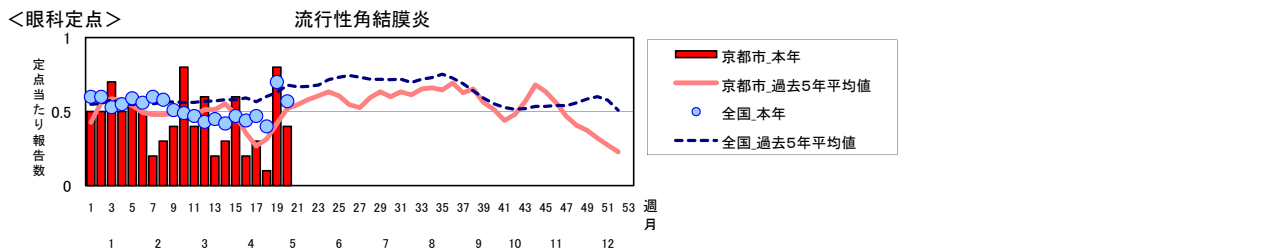
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



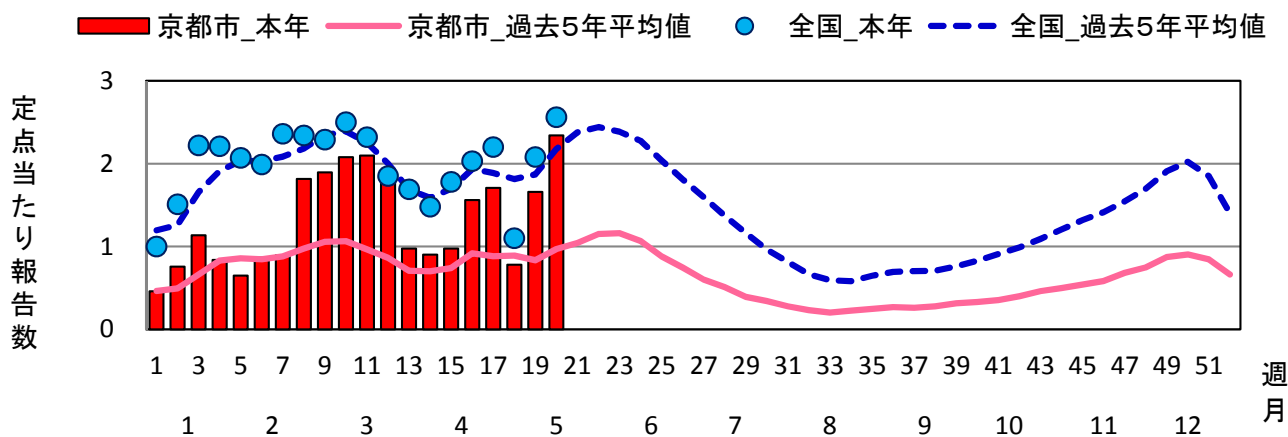
第20週(5月14日～5月20日)トピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.34(96例)で、2週連続で過去5年平均値を上回るとともに、本年度で最も多くなっています。

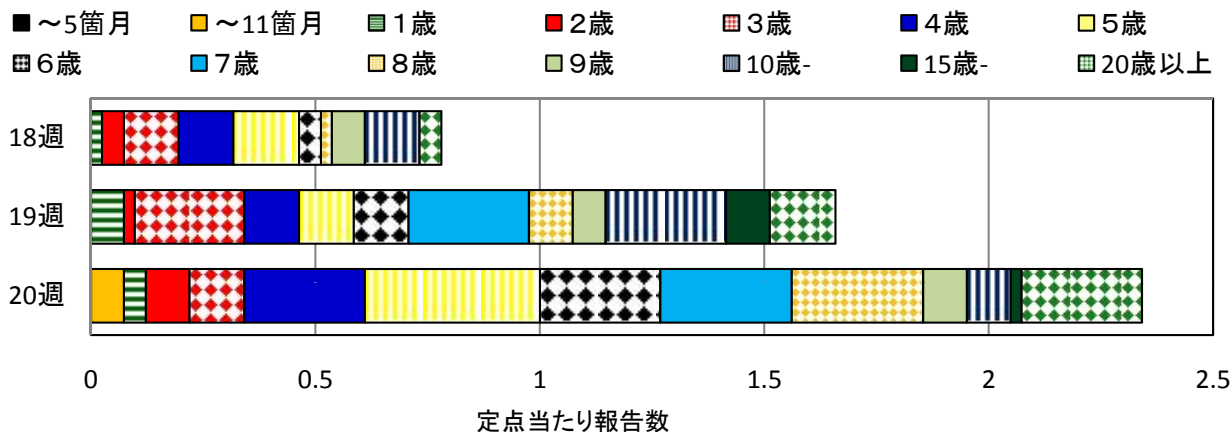
年齢階級別にみると、5歳が16例(16.7%)と最も多く、4歳～8歳で64.5%を占めています。4歳～8歳の各年齢及び20歳以上の報告数が各10例以上で、先週に比べ多くなっています。

行政区別定点当たり報告数では、西京区が6.75と最も多く、次いで南区が5.67となっています。

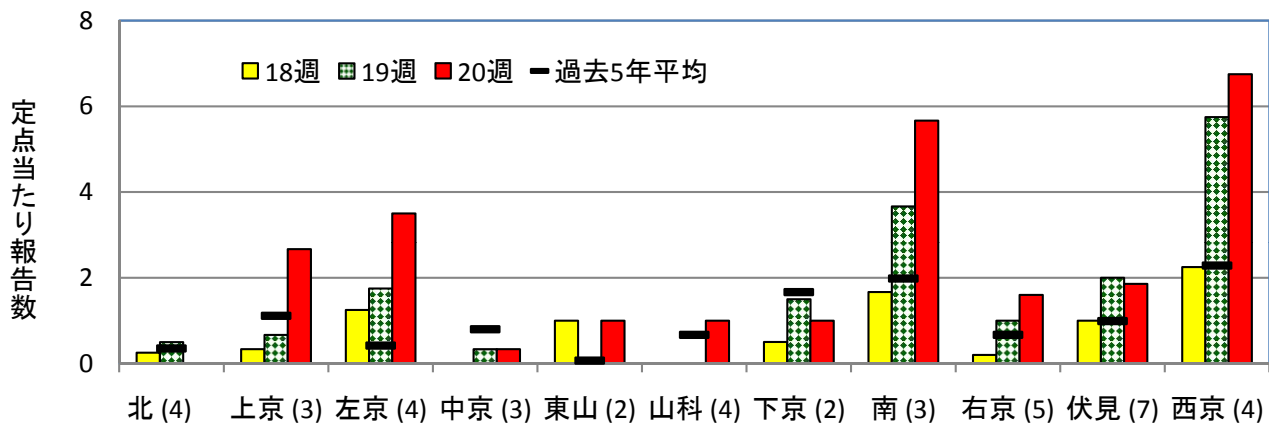
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



* ()内は各区の定点医療機関数